



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

ほう おん だい き とう え
報 恩 大 祈 禱 会

入学・卒業・就職・移転と人生の節目を迎える3月です
 これまでのご守護に感謝するとともに
 大いなる飛躍を願い妙見様に叶えていただく行事です

【3月の主な行事】

☆報恩大祈禱会 5日(日) 荒行僧出仕

11時 水行

11時半 報恩大祈禱会・修法加持特別祈禱
 12時半 車両交通安全特別祈禱 於大駐車場

★写経会 12日(日) 11時

★清掃の日 15日(水) 11時

★月例祈願法要 15日(水) 13時

☆春季彼岸法要 22日(水) 13時 於祥雲閣位牌堂

★鷗様月例祭 22日(水) 15時

【4月の行事予定】

★写経会 9日(日) 11時

★清掃の日 15日(土) 11時

★月例祈願法要 15日(土) 13時

妙見様に願いを書いたかぶと矢を献納します

☆開運祭 20日(木)終日

この日限定の「勝利開運之守」を授与します

★鷗様月例祭 22日(土) 15時

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎写経はご自宅でもできます。お問い合わせ下さい

○出会の鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

○登山カード押印は休止

○送迎車の運行は休止

◆ケーブル&リフトは3月18日から運転再開

(詳細は能勢電鉄へ) Tel 0727927716

煩惱即菩提

相川大輔

最近感動したイタリアのテレビドラマの話です。主人公は男性で医師、幼い息子を亡くしたことから立ち直れずにいます。息子を学校へ迎えに行くのですが息子は見当たらず、必死で探しますが息子と会うことはできず、という悪夢を毎晩見ています。

そんな中、ある葛藤を抱えた青年を病院で担当することになります。主人公はこの青年の葛藤を解決することに奔走しますが、主人公が青年に亡き息子を重ねていることは容易に想像できません。つまり主人公は仏教でいう「愛執」の心で彼と関わっているのです。

ついに医師の手助けによって青年の葛藤は解決されます。医師と青年との間に絆が生まれ、抱き合う二人。このシーンでは、主人公が学校へ迎えにいった息子をようやく見つけ抱きしめる映像が重なります。ここで主人公の心に変化が生じます。

主人公は亡き息子の存在をこの青年の中に、それどころか自分が関わる全ての若者の中に見出します。まさに、「愛執」の心が「慈悲」の心に転換した瞬間です。もちろん彼が救われた瞬間でもあります。

主人公のこの苦しみから救いへの転換を見て思い浮かべるのは「煩惱即菩提」という言葉です。彼の亡き息子への煩惱は、「青年を助介にして」「慈悲（菩提）」へと変容し、自分自身や青年さらに周りの人々を救っていくことになったのです。

私たちが日々取り組んでいる「お題目の受持」もまた、煩惱即菩提に密接に関係していることは言うまでもありません。

気候変動やコロナ禍、侵略戦争等の困難が立ち現れる時代にあり、私たちは様々な不安やストレスを抱えた社会を生きています。

しかしながら、私たちの目の前に現れる様々な困難を変容させ、乗り越えて、自分自身や周りの人たちの成長や救いにつなげていくことができるのが、お題目の信仰の力であると言えるのです。

百日の荒行

昨年11月1日から百日間。コロナ禍のため3年ぶりに日蓮宗荒行堂が開設されました。成満された荒行僧を迎えて、報恩大祈禱会が厳修されます。水行で身を清めたのち、特別祈禱が修せられます。

《法華経に学ぶ現代》

純智庵

諸欲の

因縁を以て

三悪道に

墜墮す

『方便品第二』

額に汗を

流さずに

悪知恵だけを働かせ

人の目法の日逃れても

お天道様はお見通し

その行く先は地獄道

はたまた餓鬼道 畜生界

欲に溺れてドザエモン

素直に反省しましょうね

仏教まめ辞典

彼岸会

お盆とともに宗派を問わぬ仏教行事のひとつ彼岸会である。彼岸の中日は春分・秋分の日にあたり、昼夜が同じ長さになる。これは釈尊の説かれた片寄りやとられのない生き方「中道」の教えに通じるものである。

彼岸とは、川の流れのこちら岸を彼岸、対する向こう側の岸を彼岸という。我々の住む煩惱に囚われた迷いの多い世界を此岸。対するに、迷いの世界から解脱して悟りの境地に至った仏の世界を彼岸という。仏教の理想とする世界が彼岸ということになる。

高い志を持つて出発しても、ともすれば我々は低きに流れやすいものである。彼岸の七日間は仏の世界に最も近づくと期間と言われる。仏道修行に励む出発点として、仏祖やご先祖に報恩感謝の誠を捧げ、誓いを新たにしたい。善根を積んでいきたい。